

# しおさい なぎさ 潮彩の渚だより

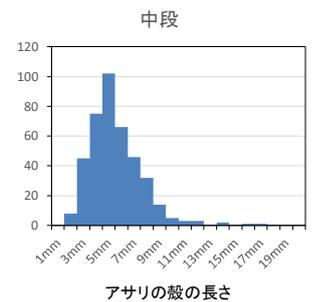
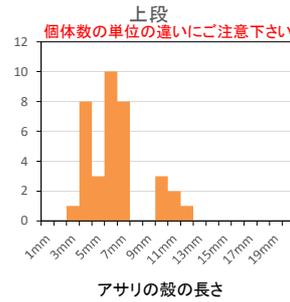
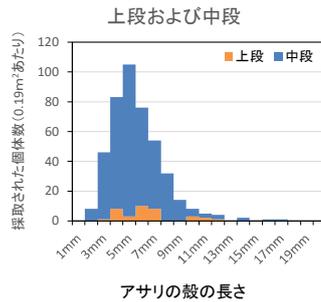
国土交通省関東地方整備局  
横浜港湾空港技術調査事務所発行  
神奈川県横浜市神奈川区橋本町2-1-4  
Tel.045-461-3892  
発行/2021年10月25日  
【復活版 第7号】  
<https://www.pa.ktr.mlit.go.jp/yokohamagicho/>

潮彩の渚では本年度も環境学習を再開しています。本号では潮彩の渚で確認された生き物や水質調査結果についてお伝えします。

**\*\* 江戸前アサリ「わくわく」調査を実施しました!! \*\***

■実施日：2021年8月20日（金） 9：00-11：00

- ・25cm×25cmの“わく”で採取した砂の中にいたアサリについて殻の長さを計測しました。
- ・今年は、殻長5mm付近の小さいサイズのアサリが多く、水深の浅い場所（上段）よりも50cm深い場所（中段）で10倍ほど多い傾向がありました。これは、アサリの大きさから、晩春～初夏に生まれた稚貝が、条件のよい水深が深い場所に多く着底したものと考えられます。



※江戸前アサリ「わくわく」調査は、東京湾環境一斉調査の一環として 毎年実施している調査です。昨年に引き続き、今年も新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、当所職員のみで実施しました。

**\*\* 事務所からのお知らせ \*\***

●潮彩の渚における環境学習の実施をご検討の場合は、本事務所までお問合せください。

[問い合わせ先] TEL：045-461-3892 E-mail：info-y83ab@mlit.go.jp

## 5月～7月に見られた生き物

- ・5月～7月では、底生生物や藻類などの様々な生物（アサリ、ガザミ、ギマの稚魚等）が確認されました。
- ・また、カルガモやハクセキレイなどの鳥類が飛来していることが確認されました。
- ・アサリは10mm前後の稚貝が多くを占めており、20mm以上のアサリは少ない状況でした。今後、稚貝が成長して大きくなっていくことが期待されます。



アサリ



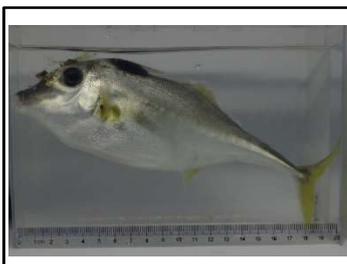
ガザミ



カルガモ(事務所構内で休憩中!).



ハクセキレイ



ギマの成魚



潮彩の渚にいたギマの稚魚

### 今月のいきもの：ギマ

【特徴】成魚は20cm前後の大きさで、銀色をした馬の顔のような見た目をしてしています。稚魚はひし形で、茶色の斑もようがあります。

【生態】比較的浅い砂泥の内容容に群れて生息しています。食性は雑食性で、ゴカイ類や甲殻類等を食べます。6月-7月頃に産卵し、稚魚は干潟やアマモ場のような浅い海域に生息し、徐々に内湾に移動していきます。

【生息域】日本の沿岸域に広く見られます。

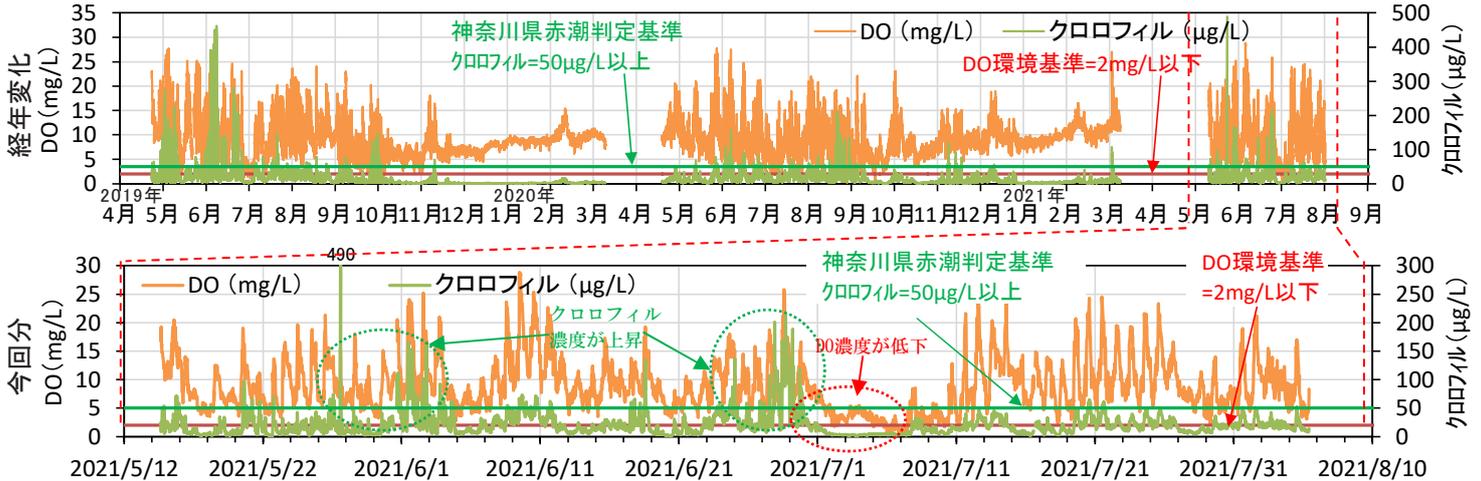
5月から7月に見られた生き物抜粋

# 「潮彩の渚」水質調査結果(5/14~8/5)

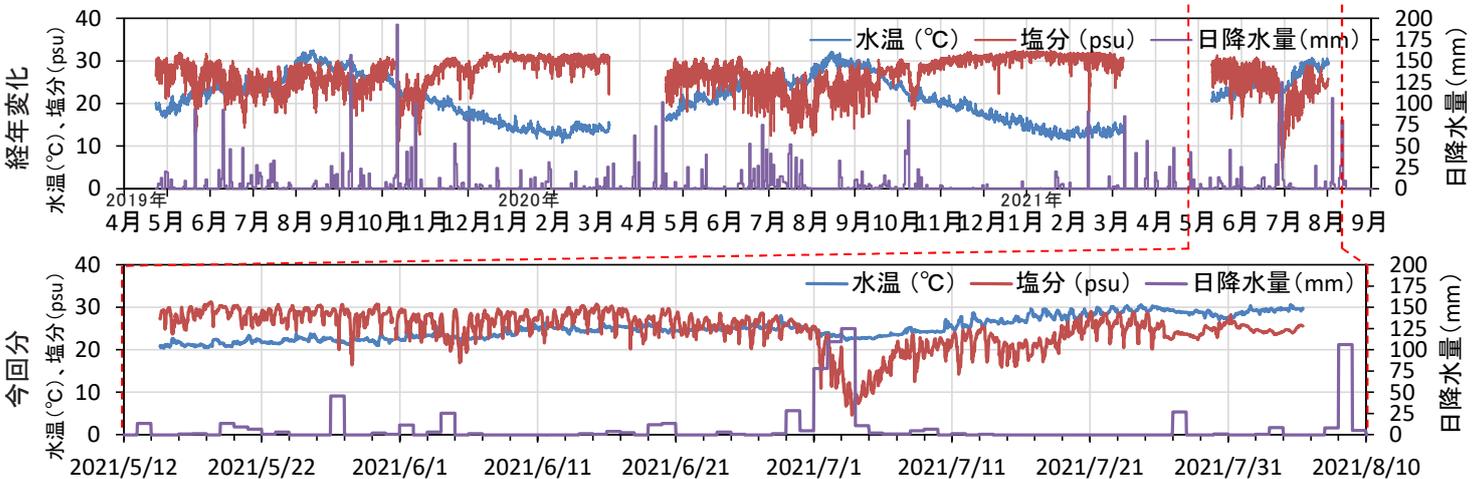
- ・潮彩の渚に水質計を設置して、水質を継続的に測定しています。本号では5月14日から8月5日の結果を示します。
- ・クロロフィル濃度が赤潮の基準値の50 $\mu\text{g/L}$ を超えた日は、昨年と同じ期間では、83日中27日で、最大値は157 $\mu\text{g/L}$ でしたが、今年は83日中30日で、最大値は490 $\mu\text{g/L}$ と昨年と同程度でした。
- ・溶存酸素(DO)濃度が環境基準の2mg/Lを下回った日(貧酸素状態)は、昨年と同じ期間では、83日中5日でしたが、今年は83日中8日で、最小値は0.5mg/Lと昨年と同程度でした。なお、5月以降は横ばいとなっていました。7月以降は断続的に貧酸素状態となっていました。

## TOPIC

潮彩の渚に隣接する山内町地先海域においても水質調査を行っております。結果については今後お知らせ致します。



溶存酸素(DO)濃度とクロロフィル濃度の測定結果(経年変化と今年分)



水温と塩分の測定結果と日降水量(経年変化と今年分)

出典:過去の気象データ(降水量の日合計), 気象庁  
(<https://www.data.jma.go.jp/gmd/risk/obsdl/index.php>)

## コラム:干潟や藻場は海の生物たちのゆりかご

- ・干潟や藻場は、多くの生き物たちが卵を産卵したり、稚子魚(魚等のこども)が食事をしたり隠れ家として利用する場を提供しています。このような生き物たちのゆりかごとしての場を提供する機能を“生物生産機能”や“ナーサリー機能”と呼びます。
- ・国土技術政策総合研究所による研究によれば、東京湾内では、干潟や藻場といった浅場を、稚子魚の生育場として利用する魚類は全体の97%、繁殖の場として利用する魚類は全体の47%にもなります<sup>1)</sup>。
- ・潮彩の渚でも、特に春から初夏にかけて、ハゼやギマ、ボラ、クロダイ等の色々な稚子魚をみることが出来ます。潮が引いたときにできる潮だまり等を目を凝らしてよく探してみてください。



写真 潮彩の渚の潮だまりで確認されたギマやシマハゼの稚魚

1) 秋山ら(2014) 内湾に分布する魚類の生息場と生活史に基づく類型, 国土技術政策総合研究所資料, 第809号。